



シリーズ

2. 非認知能力ってなに？ Vol.1

V V

今、あらゆる分野で注目されている、「非認知能力」をご存じですか？

2006年ジェームズ・ヘックマン教授が経済学の観点から発表した論文の中に出てきます。幼少期に非認知能力を高めることがその後の人生の成功につながるとしています。以降、様々な人や機関で「非認知能力」の重要性、必要性がうたわれています。文部科学省でも平成29年の学習指導要領に「生きる力」「学びに向かう力」など「非認知能力」の育成がうたわれています。小平二中でも、令和6年度から2年間かけ、非認知能力をテーマに、校内研究が進められています。ただ、わかるようでわからない「非認知能力」。どういうものを指しているのか？どのようにしたらその能力は伸びるのか？など、CSだよりの中でシリーズにしてご紹介したいと思います。非認知能力は、幼少期に著しく伸びると言われていますが、思春期でも大人でも伸ばしていくことはできるようです。みんなで一緒に学んでみませんか？



認知能力と非認知能力

認知能力とは、読み書き計算などの見える学力です。IQ（知能指数）など数値化できる力です。一方、非認知能力とは、忍耐力・自制心・回復力・コミュニケーション力など数値化して測りづらい力のことです。「生きる力」や「人間力」などと表現されることもあります。現代社会は、グローバル化・情報化・人工知能の発達など急速に変化しています。今までと同じスキルでは太刀打ちできないこともでてくる中、未来社会を生き抜く力として、「認知能力」に加え、「非認知能力」を伸ばすことが注目されています。



💡 非認知能力、具体的には？

非認知能力は、様々な文献・見解がありますが、大きく分けて3つの項目がありそうです。①目標の達成②他者との協働③情動の制御。さらに細かくみていくと①目標の達成には「忍耐力」「自己抑制（自分の行動をコントロールする力）」「目標への情熱」、②他者との協働には「社交性」「敬意」「思いやり」「協調性」、③情動の制御には「自尊心（自分を大切にする力）」「楽観性（前向きな気持ちを持つ）」「自信（自分の能力や価値を信じる）」といった項目があります。これらの力を伸ばしていくことがカギとなりそうですね。

次回も、もう少

次回は、もう少し
それぞれの項目を
深掘りし、力を伸ばし
ていくコツを探して
いこうと思います。
お楽しみに。



コミュニティ・スクール（学校経営協議会）は、学校と保護者、地域住民などが力を合わせて子どもたちを育む「地域とともにある学校づくり」に取り組むための仕組みです。

問い合わせ先
小平二中 副校長 相澤史彦

☎042-341-0244

 **kodaira2chu.cs@gmail.com**